

カボチャ団体による陳情から 100年 JR石北線活性化を考える

遠軽フォーラム



安彦良和「カボチャ団体の陳情」

1924年11月、延期とされた旭川－遠軽間の鉄道建設計画の再開を訴えるために遠軽村から52名が上京しました。

彼らは省庁や政治家に対し、「鉄道がないため米が高くてカボチャしか食べられない」として、鉄道の必要な地域の実情を訴えました。その陳情団は「カボチャ団体」として新聞や雑誌で話題となり、翌年工事は再開されることになりました。

今、石北線はJRが単独では維持困難とし、存廃の岐路にあります。100年前の先人から学び、石北線の活性化を考えます。

10/20

15:00～

16:30

日

場所

遠軽町芸術文化交流プラザ

多目的室4・5

定員

50名

申込・問

遠軽町総務部企画課

☎(0158) 42-4818

カボチャ団体特別展

期間 10月19日(土) ～ 11月10日(日)

場所 遠軽町芸術文化交流プラザホワイエ2

内容 郷土館所蔵のカボチャ団体資料を展示

☎ 遠軽町教育委員会社会教育課 ☎(0158) 42-2191

同日開催の「JR石北線で行く秋の遠軽町満喫日帰りツアー」(北見駅発着、(定員20名))参加者もフォーラムに参加する予定です。

ツアー、フォーラムとも北見市のNPO法人オホーツク鉄道歴史保存会との連携事業として実施します。

遠軽町の未来のために、みんなで守ろう

石北線!